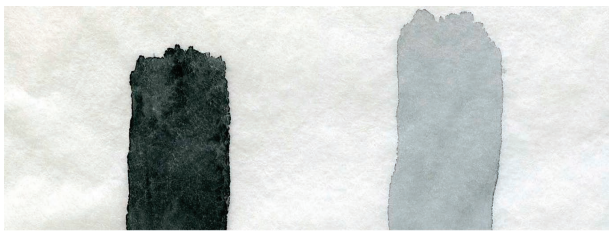




礬水引き

どうさびき



礬水引きあり



礬水引きなし

礬水液の使用例：和紙に礬水液を引いた場合（写真：上）は墨や絵具がにじまず定着も良くなり、引かない場合（写真：下）はにじみが起きます。

概要

礬水引き（どうさびき）は、日本画の支持体として用いられる和紙や絵絹などのにじみ止めを行う技法です。

「生（なま）」の和紙や様々な支持体となるものに礬水引きをします。礬水引きは天気の良い日に行なうのが良いとされ、雨の日や湿度の高い時は礬水がききにしくなります。温度の高い礬水液を引くと和紙の表面が光るので、人肌の温度ぐらいが良いとされます。ききにくい場合は温度の高い礬水液を引きます。

礬水引きの手順は、毛氈（もうせん）や毛布などの上に和紙を広げます。和紙が内巻状態の場合は無理に広げず礬水引きを行なうことで自然に内巻きが広がります。和紙の表面上部端から礬水液を含ませた巾の広い刷毛で一定方向に引きます。一回目の礬水引きは和紙への浸透が多いので刷毛をゆっくりと動かして和紙にたっぷりを含ませます。和紙への含みを一定に刷毛跡は、かすれないようにします。礬水液の含みが少なくなったら再度、礬水液を刷毛に含ませます。刷毛跡の重なる部分は多くなく、また隙間が出来ないようにします。表面の礬水液が完全に乾いたら二回目は裏面に同様に礬水を引きます。二回目からは、さほど浸透しないので礬水液は少なめで良いです。（表裏表と順に引くのが最も良いとされます。）薄美濃紙、絵絹に引く場合は二倍程度に薄めた礬水液を使用し、回数は表裏一回ずつ引きます。

あ
か
さ
た
な
は
ま
や
ら
わ
A
B
C
D
E
F
G
H
I
J
K
L
M
N
O
P
Q
R
S
T
U
V
W
X
Y
Z
数字

礬水液をつくる



手順1. 膠液に1リットルの湯（35～70℃程度）をそそぎ、かき混ぜます。



手順2. よくすり潰した生明礬5グラムを、薄めた膠液に少しずつ入れます。



手順3. 生明礬の粒子がなくなるまでよくかき混ぜて、礬水液の完成です。

礬水引き



手順1. 礬水液と礬水刷毛を用意し、和紙は毛氈（もうせん）や毛布などの上に敷きます。



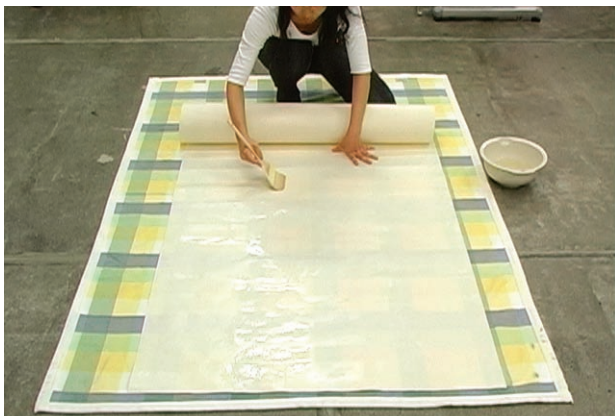
手順2. まず和紙の表面の端から一定方向に引いていきます。



手順3. 礬水液を和紙にたっぷり含ませるように引きましょう。このとき、あまり刷毛を紙に押しつけないように注意しましょう。引き終わったら、和紙をよく乾かします。



手順4. 和紙が完全に乾いたら裏側に返します。大きい和紙の場合は巻いて、表面の時と同様に端から一定方向に引いていきます。



手順5. 裏面も引き終わったらよく乾燥させ、その後、再び表面に引きます。(表面→裏面→表面の順で引きます。)